



ユーザーマニュアル

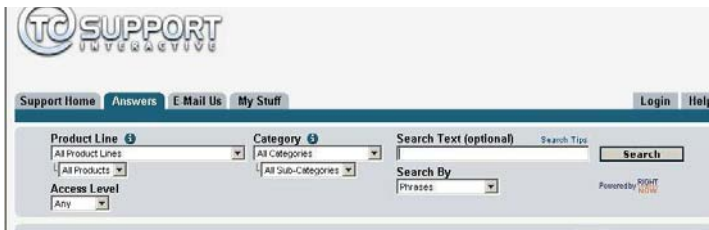
Filtroid for PowerCore

サポート連絡先

TC Support Interactive

TC Support Interactive (www.tcsupport.tc) は、オンラインのサポート及び情報提供のためのウェブサイトです。TC Support Interactive では、TC ソフトウェア／ハードウェア製品に関する一般的な質問の解答を、製品／カテゴリ／キーワード／フレーズから検索可能です。一度サイトで登録を行ってログインすれば、「My Stuff」セクションから、質問の状況を調べたり、製品マニュアル／ソフトウェア・アップデート／プリセット等のダウンロードが行えます。

データベースはTC製品に関する最新の情報が満載です。お求めの情報がデータベースにない場合は、質問を提出することも可能です。この場合は、TCテクニカル・サポートのスタッフが電子メールでご連絡させていただきます。



連絡先

また、インターネット以外でのお問い合わせにつきましては、各地域のTC支社または輸入代理店までご連絡ください。

TC ELECTRONIC A/S
Customer Support
Sindalsvej 34
Risskov DK-8240
Denmark

USA:
TC Electronic, Inc.
5706 Corsa Avenue, Suite 107
Westlake Village, CA 91362

www.tcelectronic.com

© BY TC ELECTRONIC A/S 2007. ALL PRODUCT AND COMPANY NAMES ARE TRADEMARKS OF THEIR RESPECTIVE OWNERS. VST IS A TRADEMARK OF STEINBERG AG, AUDIO UNITS IS A TRADEMARK OF APPLE COMPUTER, INC.

ALL SPECIFICATIONS SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE.

ALL RIGHTS RESERVED. TC Electronic is a TC Group company.

サポート連絡先	2
目次	3
イントロダクション	4
一般情報	5
プラグイン概要	7
パラメータ	
マスター・セクション	8
フィルター	9
アンプリファイアー	10
モジュレーション	10
LFOモジュレーション	11
エンヴェロープ・フォロワー	12
サイドチェイン	13
プリセット管理	15

イントロダクション

Filtroid は、PowerCore を搭載した環境でアナログ・フィルター・バンクのサウンドを実現します。デュアル・フィルターと充実したモジュレーション機能を搭載し、フィルターは直列／並列を切り替えることが可能。緻密に設計されたアルゴリズムが、高品位ながらも過激なフィルター効果を実現します。サイドチェイン入力の機能も装備し、他のトラックをモジュレーションのソースとして使用可能。テンポ同期にも対応し、ご使用のシーケンサーの楽曲テンポに合わせたフィルターの開閉を行ったり、内蔵の歪みを加えることによりサウンドにさらなるエッジを与えることもできます。Filtroid は、PowerCore 用に設計された、フィルター・プラグインの決定版と言えるでしょう。

主な機能

- 2 系統独立のフィルター
- 各フィルターは、それぞれローパス／ハイパス／バンドパスを切替可能
- 自己発振可能なレゾナンス
- フィルターの特性を、12 / 18 / 24 dB/oct. から選択可能
- 各系統に、独立した LFO を搭載
- エンヴェロープ・フォロワー
- ステレオ・モジュレーション
- 外部サイドチェイン入力

動作環境

Windows

PowerCore ソフトウェア、バージョン 3.0 以降
Windows XP
PIII 1.4 GHz 以上
512 MB RAM
VST 対応ホスト・アプリケーション
ホスト・アプリケーションの動作条件を満たしたシステム

Macintosh

PowerCore ソフトウェア、バージョン 3.0 以降
Mac OS X (10.4 以上)
G4 / G5 / Intel 搭載機 (1 GHz 以上)
512 MB RAM
VST / AU / RTAS* 対応ホスト・アプリケーション
ホスト・アプリケーションの動作条件を満たしたシステム

※ RTAS (Pro Tools) の対応は、FXpansion 社によるサードパーティー製 VST-RTAS アダプター経由での動作となります。動作条件を含む詳細は www.tcsupport.tc をご参照ください。

はじめに

スクロール・ホイール対応

Windows XP / Mac OS X 共に、ホスト・アプリケーションが対応している場合は全てのパラメータをスクロール・ホイールから操作できます。マウスをパラメータの値フィールドの上に移動し、スクロール・ホイールを動かすと、パラメータの値を上下できます。

キーボード・ショートカット

多くのホスト・アプリケーションでは、次のキーボード・ショートカットが使用できます。次のショートカットは、全てのパラメータに有効です。

Mac OS X のショートカット

デフォルト復帰 = オプション
ファイン調整 = コマンド
グループ解除 = シフト
コンテキスト・メニュー =
コントロール + マウス、又は右マウス

Windows のショートカット

デフォルト復帰 = シフト + コントロール
ファイン調整 = Alt
グループ解除 = シフト
コンテキスト・メニュー = 右マウス

DSP 消費量

Filtroid 一つあたりの DSP 消費量は次の通りです (PowerCore X8 / FireWire / Compact / Express / mkII / Unplugged)。

44.1 kHz 時

モノラル: 56%
ステレオ: 56%

48 kHz 時

モノラル: 61%
ステレオ: 61%

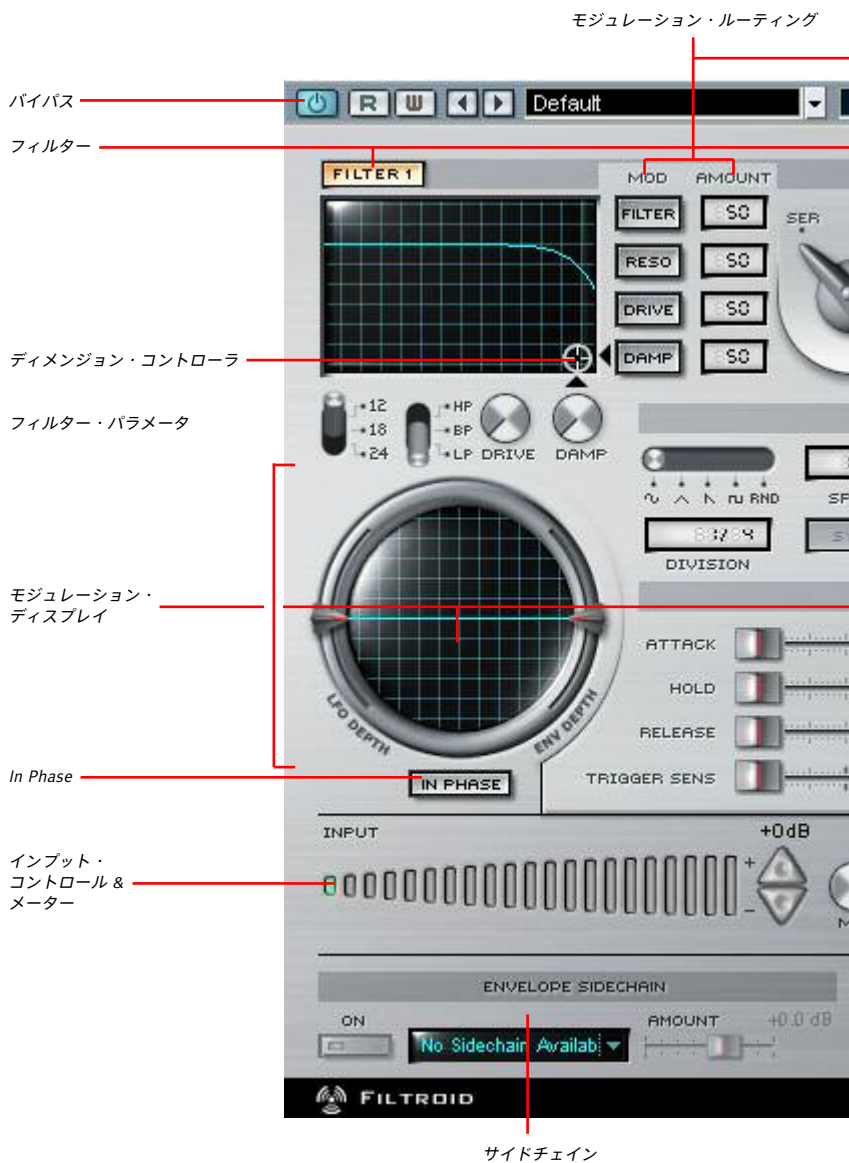
88.2 kHz 時

モノラル: 56%
ステレオ: 56%

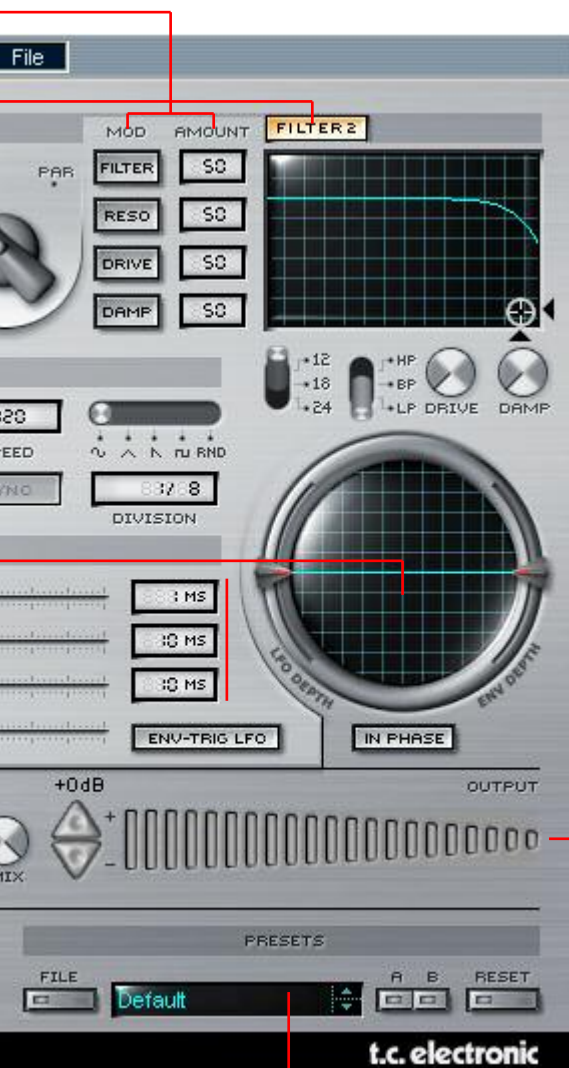
96 kHz 時

モノラル: 61%
ステレオ: 61%

プラグイン概要



プラグイン概要



アウトプット・
コントロール &
メーター

プリセット・マネージャー

マスター・セクション

マスター・セクション

Input - インプット

Filtroidの入力セクションは、単独の入力メーターと、クリップ・インジケーターを兼ねたゲイン調節用の三角ボタンにより構成されます。入力段でオーバーロードが検出されると、ゲイン調節のボタンが赤く点灯します。

Output - アウトプット

Filtroidの出力セクションは、単独の出力メーターと、クリップ・インジケーターを兼ねたゲイン調節用の三角ボタンにより構成されます。出力段でオーバーロードが検出されると、ゲイン調節のボタンが赤く点灯します。

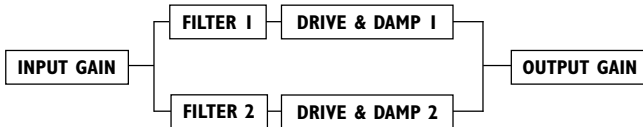
Routing - ルーティング

Filtroidの搭載する2基のフィルターの接続方法を指定します。「SER」(Serial)は直列、「PAR」(Parallel)は並列です。デフォルトでは、直列の設定となり、Filter 1の出力がFilter 2に入力されます。「PAR」の設定では、入力が2系統に分岐され、それぞれのフィルターへとルーティングされます。詳細は、次のブロック・ダイアグラムをご参照ください。

Series - 直列



Parallel - 並列



Mix - ミックス

入出力メーターの間に位置するMIXつまみは、ウェット/ドライのバランスを調節します。

ノー・レーテンシー・モード

Filtroidは、プラグイン・レーテンシーを回避するためのノー・レーテンシー・モード機能を搭載しています。ノー・レーテンシー・モードでFiltroidを使用するには、画面左下のPowerCoreロゴをクリックします。ノー・レーテンシー・モードがオンの場合、ロゴが赤く点灯します。このモードは、プラグイン・レーテンシーを回避するものの、CPUに大きい負荷を掛けますので、絶対に必要となる場面でのみ使用することをお勧めいたしません。

フィルター

Filter 1/2 - フィルター 1/2

Filtroid は、名称通り、フィルターを主な機能とするプラグインです。充実したモジュレーションを搭載した 2 系統のフィルターを統合し、普通のサウンドでは物足りない場面に威力を発揮します。フィルターのほとんどのパラメータは系統ごとに独立しています。両系統とも同時に影響されるパラメータのみ、その旨を記述いたします。

ディメンジョン・コントローラ

ディメンジョン・コントローラのターゲットを移動することにより、フィルターのカットオフ周波数とレゾナンスを同時に調節することができます。縦軸はフィルターのレゾナンスを、横軸はカットオフ周波数を示します。このパラメータの組み合わせで、シンセサイザー・スタイルのフィルター効果を得ることができます。

In Phase - イン・フェイズ

「In Phase」が点灯している場合、ステレオ両チャンネルの信号は同じ LFO モジュレーションを行います。点灯していない場合、各チャンネルは逆相のモジュレーションを行い、強調されたステレオ感を得られます。

フィルター・タイプ

「HP」はハイパスの略で、指定したカットオフ周波数より高い周波数を通過させ、低い周波数をアッテネートします。カットオフ値以下の周波数に対するアッテネーションの量は、カットオフのスロープに依存します。例えば、ハイパス・フィルターで 24 dB のスロープを選択した場合、12 dB のスロープに比べて、低域になるほど強くアッテネーションが行われます。

「BP」はバンドパスの略で、指定したカットオフ周波数の近辺にある周波数のみを通過させ、指定周波数から上下離れた周波数をアッテネートします。カットオフ値上下の周波数に対するアッテネーションの量は、カットオフのスロープに依存します。例えば、バンドパス・フィルターで 24 dB のスロープを選択した場合、12 dB のスロープに比べて、カットオフ値から上下に外れるほど強くアッテネーションが行われます。

「LP」はローパスの略で、指定したカットオフ周波数より低い周波数を通過させ、高い周波数をアッテネートします。カットオフ値以上の周波数に対するアッテネーションの量は、カットオフのスロープに依存します。例えば、ローパス・フィルターで 24 dB のスロープを選択した場合、12 dB のスロープに比べて、高域になるほど強くアッテネーションが行われます。

アンプリファイアー & モジュレーション

アンプリファイアー

フィルターはそれぞれ「Drive」（ドライブ）と「Damp」（ダンブ）を調節できます。

Drive - ドライブ

歪みの量を調節します。

Damp - ダンブ

Damp 値を上げると高域がアッテネートされ、より「丸い」サウンドが得られます。このパラメータは、特に Drive の値が高い場合に効果的です。ダンピング値が高い程歪みのピークが押さえられ、ソフトになります。

モジュレーション

Filtroid は充実したモジュレーション機能を搭載しています。2 系統の LFO と 1 つのエンヴェローブ・フォロワーに加え、最大 2 系統の外部サイドチェイン・チャンネルを使用できます。さらに、エンヴェローブを LFO のトリガーとして使用したり、テンポ同期を行うことも可能です。

モジュレーション・ディスプレイ

各フィルターのモジュレーション・ディスプレイは、モジュレーションのデプス（深さ）と速度を表示します。この表示は一見オシロスコープの様に見えますが、実際にはフィッシュ・アイ（魚眼）ディスプレイで、真のオシロスコープではありません。表示される波形の高さはモジュレーションの深さを、長さは速度を示します。LFO とエンヴェローブ・フォロワーが両方作動していない場合はモジュレーションが行われないため、ディスプレイにモジュレーションの波形は表示されません。

LFO モジュレーション

LFO モジュレーション

LFOはLow Frequency Oscillator（ロー・フリークエンシー・オシレーター＝低周波発振器）の略で、エフェクトにモジュレーションを与えます。オシレーターは可聴範囲以下の周波数で波形を生成し、フィルターの設定を上下に揺らします。LFOの「Speed」（速度）と「Depth」（深さ）の設定の組み合わせで、ビブラートやワウ、トレモロなどの効果を得られます。



**LFO Speed = 高速、
Depth = 高**



**LFO Speed = 低速、
Depth = 低**

Shape - 形状

LFOの波形を、サイン波、三角波、ノコギリ波、矩形波、ランダム波から選択します。

Speed - 速度

LFOの速度をbpm（Beats Per Minute）で指定します。

Sync - シンク（同期）

Syncボタンがオンの場合、LFOはMIDIクロックを検出し、そのテンポに同期します。

シンクがオンの場合、Syncボタンは黄色に点灯し、LFOが検出したテンポに同期します。テンポが検出できない場合、ボタンは灰色となり、クリックしても反応しません。

Division - ビート分割

モジュレーションの周期を、テンポに対する音符を単位として指定します。設定範囲は、1/16から16/1ビートです。1/1の設定では、LFOはSpeedパラメータで指定したテンポの1小節で、1つの周期を描きます。Divisionフィールド内でマウスをドラッグすると、偶数の音符のみが表示されます。奇数や、標準的でない設定を行うには、フィールドをダブルクリックし、周期を手動で入力します。

LFO Depth - LFO デプス

LFOモジュレーションのデプス（深さ）を調節します。デフォルト値はゼロで、信号に影響を与えません。

エンヴェロープ・フォロワー

エンヴェロープ・フォロワー

エンヴェロープ・フォロワーは、入力の音量に連動したモジュレーションを行います。プラグインの入力をエンヴェロープとする標準的な使用法他に、後述のSideChainerプラグインを使った外部サイドチェインも行えます。

Attack - アタック

フィルター・エンヴェロープのアタック・タイムを、0～100 msの範囲で指定します。

Hold - ホールド

アタックからディケイ（後述）に移行する前にフィルター・エンヴェロープの最大値を持続させる時間を、10～500 msの範囲で指定します。

Decay - ディケイ

フィルター・エンヴェロープのディケイ・タイムを、10～500 msの範囲で指定します。

Env. Depth - エンヴェロープ・デプス

エンヴェロープ・モジュレーションのデプス（深さ）を調節します。設定値がセンターのゼロの場合、信号に影響を与えません。

Env-Trig LFO - エンヴェロープ・トリガードLFO

このボタンをONにすると、エンヴェロープ・フォロワーがLFOをトリガーします。FilteroidのLFOは常に発振していますが、このボタンをONにすると、エンヴェロープがLFOにトリガーを送る度にLFOがリセットされ、LFOは波形の始点に戻ります。一度リセットされたLFOの波形は、次のトリガーを受信するまで、発振を続けます。

Trigger Sense - トリガー・センス（感度）

エンヴェロープ・トリガードLFOの感度を設定します。設定値を上げる程、エンヴェロープへの感度が増します。

モジュレーション・ルーティング

モジュレーションは、フィルターの系統ごとに4つのパラメータに対して行えます。「Filter」（フィルター・カットオフ）、「Reso」（レゾナンス）、「Drive」（ドライブ）、「Damp」（ダンブ）の4つのデスティネーションに対して、それぞれ0～100%の範囲で、独立したモジュレーションの量を指定できます。

特定のパラメータに対するモジュレーションをバイパスするには、ボタンをクリックして、選択を外します。

サイドチェイン

Envelope SideChain - エンヴェロープ・サイドチェイン

概要

オーディオ・プロダクションにおけるダイナミクス処理のサイドチェインとは、一つのトラックの音声レベルの変動を別のトラックにインサートされたエフェクトの処理に適用することを指します。サイドチェイン処理は多彩な用途に使用できます。PowerCore パッケージにはTC SideChainer プラグインが付属しており、Filtroid を含むいくつかのプラグインと組み合わせることができます。



SideChainer プラグインの用法については、SideChainer プラグインのマニュアルをご参照ください。

SideChain パラメータ

On

Filtroid を SideChainer プラグインに反応させるには、ここをオンにした上で、ドロップダウン・メニューから起動しているどの SideChainer に連動させるかを選択します。

Amount - 適用量

選択したサイドチェインのダイナミクス変動にどれだけ反応させるかを指定します。SideChain プラグインの Send Gain パラメータも同様の働きをします。

サイドチェイン

Filtroidの外部サイドチェイン

Filtroidの特徴の一つに、外部サイドチェイン機能があります。これは、エンヴェローブ・フォロワーのレベル検知を、プラグインの入力信号ではなく、外部信号に対して行うものです。使用例としては、シンセ・パッドの素材に対して、フィルターの変化をドラムループの音量の変動に合わせることが考えられます。ドラムのビートに合わせてフィルターが開き、オフビートではフィルターが閉じるなど、単純なフィルター・スweepではありえない複雑な効果が得られます。

Thruがオフの場合、SideChainerは出力をミュートします。これは、サイドチェインに使用している素材の音を使用せずに、モジュレーションの素材のみとして使用したい場合に便利です。

Filtroidをインサートしたトラックのエンヴェローブ・フォロワーをSideChainerがインサートされたチャンネルの素材に連動して作動させるには、まず、モジュレーション・ソースのトラックにSideChainerプラグインをインサートします。次に、SideChainerによるモジュレーションを施したい素材のトラックにFiltroidをインサートします。

SideChainerを使用するトラックの準備が完了したら、Filtroid側でもサイドチェインを有効にする必要があります。SideChainerがインサートされた段階で、FiltroidのSideChainライトが点灯します。Filtroid側で、使用するサイドチェインの系統を選択します。



PowerCore 3.0では、以前のバージョンからサイドチェイン機能が大幅に変更されています。古いバージョンを使ったセッションのファイルをPowerCore 3.0を使ったシステムで開く場合、サイドチェイン関連の設定を再度行なう必要があります。



SideChainerプラグインの使用法の詳細は、SideChainerプラグインのマニュアルをご参照ください。

プリセット管理

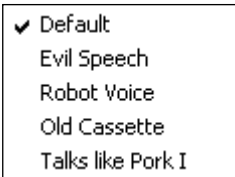
はじめに

通常はPowerCoreのファイル管理システムを使用することをお勧めいたします。PowerCoreのファイル管理システムは、プリセットのリコール（呼び出し）／ストア（保存）／コンペア（比較）機能に加え、他のホスト・アプリケーションやプラットフォームを使用している環境との間でもプリセットの交換が簡単に行える利点を持ちます。



File - ファイル

Fileをクリックすると、ファイル・メニューが開きます。



Load Preset (ロード・プリセット) - デフォルト・プリセットをロードします。

Save Preset (セーブ・プリセット) - My Presets フォルダにプリセットを保存します。

My Presets (マイ・プリセット) - 独自に作成したプリセットをロードすることができます。



プリセットを My Presets フォルダ以外の場所に保存した場合、それらのプリセットは My Presets ドロップダウン・メニューに表示されません。その場合は、Load Preset 機能でロードするプリセットの場所を指定できます。

Preset Name - プリセット名

プリセット名です。

Up / Down - アップ / ダウン

上下矢印でプリセットを順番に切り替えることができます。

プリセット管理

A/B

A/B比較機能で、二つの設定を比較しながら作業を進めることができます。

プリセットの操作をはじめた段階では、A/Bボタンは灰色で表示されます。この状態は、AとBの内容は同一で、比較を行なう内容がないことを示します。

パラメータを一つでも変更すると、メモリー「A」がアクティブとなります。パラメータの変更内容は全て「A」に反映されます。「B」に変更すると、始点に戻り、そこからの変更は全て「B」に反映されます。A/Bボタンを押すごとに、この二つの状態が切り替わります。



A/Bメモリーは、あくまでも一時的な設定の保存場所です。プリセットの保存は、現在選択されているメモリー場所のみを保存します。他の（隠れた）メモリー場所の設定は、保存されません。

Reset - リセット

Resetボタンを押すとメモリーがクリアされ、プリセットがリコールされた元の状態に戻ります。

デフォルト・プリセットの保存場所

デフォルト・プリセットは、それぞれのプラグイン固有のフォルダに保存されます。

Mac OS X

ファクトリー・プリセット

<Macintosh HD>/ライブラリ/Application Support/TC Electronic< プラグイン名 >/Presets/

ユーザー・プリセット

/Users/< ユーザ名 >/ライブラリ/Application Support/TC Electronic< プラグイン名 >/Presets/

Windows

ファクトリー・プリセット

C:\Program Files\TC Electronic< プラグイン名 >\Presets

ユーザー・プリセット

C:\Documents and Settings< ユーザ名 >\My Documents\TC Electronic< プラグイン名 >\Presets

- プリセットを消去するには、ゴミ箱に移動します。
- プラグイン・メニューでサブフォルダが表示される様にするには、プラグインのデフォルト・プリセットの保存場所にあるPRESETSフォルダ内に新しいフォルダを作成します。



フォルダ内に最低一つのプリセットが含まれていないと、フォルダはプリセット・ファイル・メニューに表示されません。